

平成26年度研究成果報告書《平成26年度教育課程研究指定校事業》

都道府県・ 指定都市番号	24	都道府県・ 指定都市名	三重県	研究課題番号・校種名	2 中学校
				教科名	技術・家庭（家庭分野）
研究課題	<p>○学習指導要領の指導状況及びこれまでの全国学力・学習状況調査結果から、新学習指導要領の趣旨等を実現するための教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究</p> <p>○内容「B食生活と自立」において、（2）日常食の献立と食品の選び方のア、イ、（3）日常食の調理と地域の食文化のア、イに関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、日常生活で活用する能力を育成するための指導と評価の研究開発</p>				
学校名（生徒数）	鈴鹿市立創徳中学校（668）				
所在地（電話番号）	〒513-0803 三重県鈴鹿市三日市町1803-8 電話 059-382-5205				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	http://www.edu.city.suzuka.mie.jp/sou-j/				
研究のキーワード	実践力の育成、お弁当作り、ティームティーチング、話し合い活動、ワークシートの開発				
研究成果のポイント	<p>「一人調理」は、各自が達成感を味わうことができ、調理に対しての実践意欲を高める上で有効であった。さらに、月一回の調理の課題と年間三回の「お弁当の日」は調理体験の機会を増やし、調理技能の定着を図ることができた。</p> <p>グループ活動における言語活動の充実やワークシートの活用は、食生活をよりよくしようとする能力の育成につながった。</p>				

1 研究主題等

(1) 研究主題

食生活の中で活かす確かな実践力の育成
～「お弁当作り」を通して食生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる～

(2) 研究主題設定の理由

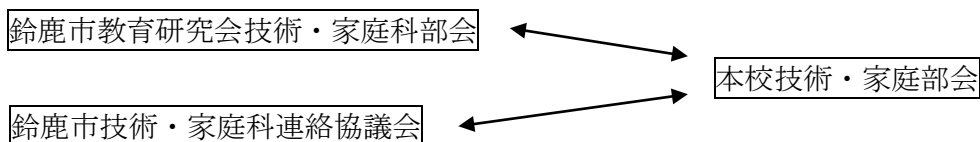
本校は、鈴鹿市のほぼ中心部に位置し、校区には住宅地・農地・繁華街が混在しており、生徒の環境は多様である。アンケートからは、食べることに対する興味・関心は高いが、栄養のバランスを考えて食事を摂っている生徒は少なく、調理の技能も十分身に付いていない状況も見られる。

本校は現在、昼食は弁当で、多くの生徒は家族が作った弁当を持参しており、自分では作っていない現状がある。しかし、年間に三回設けている「お弁当の日」には、生徒は意欲をもって弁当作りに取り組んでいる。

そこで、「お弁当作り」をテーマとし、栄養のバランスを考えて弁当の献立を立てたり、身に付けた調理の技能を活用して弁当を作ったりすることを通して、食生活をよりよくする能力と態度を育てることを目指して研究主題を設定した。

さらに、チームティーチングによる指導の工夫により、食生活への関心を高め、栄養バランス等を考えることができるようにするとともに、一人一人に調理の技能を身に付けさせたいと考えた。

(3) 研究体制



(4) 1年間の主な取組

平成 26 年 度	4月	生徒の実態把握
	5月	指導計画及び指導方法の検討, 作成
	6月	実践に向けた学習指導案の作成
	7月	教科調査官を招聘した授業実践および研究協議
	8月	学習指導案などの見直し
	11月	鈴鹿市技術・家庭科連絡協議会での研究授業参観及び研究協議
	12月	発表資料の作成
1月	研究のまとめ	

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

①食生活に関する生徒の実態把握

生徒の実態や変容を把握するために、題材の最初と最後にアンケートを実施し、今後の授業改善に生かした。

②三学年を見通した指導計画の工夫

「お弁当作り」について、学習段階に応じてテーマをもたせた題材を設定し、三年間継続して食生活の内容を学習できるように、指導計画の見直しを行った。

③ワークシートの工夫

生徒の思考の流れを記録し、他の生徒との意見交流による思考の深まりを把握できるようにするためのワークシートを工夫した。

④調理実習の指導の工夫

実践力を身に付けさせるために、一人で最初から最後まで調理をする「一人調理」の指導方法を工夫した。

⑤チームティーチングによる指導の工夫

調理実習や献立作成において、チームティーチングを取り入れ、個々の進捗状況に対応して、きめ細かな指導を行うことができるようにした。

⑥家庭との連携

生徒の調理への意欲を高めるために、月一回の家庭実践を取り入れ、まとめのワークシ

トに、家庭からコメントをもらう欄を設けたり、保護者会等で便りを配布し、年間三回の「お弁当の日」に家庭の協力を得ることができるように依頼したりして、家庭との連携を図った。

(2) 具体的な研究活動

① アンケートの実施

家庭や生徒の食生活の実態を把握するため、アンケートを実施した。アンケートの内容は、包丁の活用や料理を作ることに對して自信があるかどうかを問うものと、食に関する興味を問うものである。最初に実施したアンケートでは、「だしをとったことがない」や「魚料理をやったことがない」と答える生徒が比較的多かった。また、「一人で料理をすることがありますか」という問いに對して、ほとんどしていないと答える生徒が多く、調理の経験が少ないことがわかった。また、題材の最後にもアンケートを実施し、どのように生徒の意識が変化したのかを分析した。

② 三年間を見通した指導計画の工夫

各学年の学習に應じたテーマ（一年は栄養のバランス、二年生は食品の選び方、三年生は地域に目を向けて）を設定し、三年間を見通した指導を行うことで、食に對する意欲を継続するとともに、調理の技能の向上を図った。

③ ワークシートの工夫

鈴鹿市教育研究会技術・家庭科部会と連携して、生徒の思考の流れを把握できるワークシートを開発した。献立作成や調理計画では、少人数でのグループで話し合うことで思考を深め、それをワークシートにまとめるようにした。他の生徒の考えに触れ自分の考えを再構築することができるようワークシートの記入欄を工夫した。

④ 調理実習の指導の工夫

調理における技能の向上、定着を図るために、例えば、「いわしのかば焼き」の調理を二人一組で行い、互いに実習の様子を観察し、相互評価した。生徒は初めていわしを扱ったが、「他の魚をさばいたり、他の魚料理を作ったりしたい。」「いわしのかば焼きを作り、家族にも食べてもらいたい。」などの感想から、意欲的に取り組み、実践への意欲を高めたことがうかがわれた。

⑤ ティームティーチングによる指導の工夫

調理実習等でクラスを半分ずつにわけて示範を行うなど、生徒にとって理解しやすい環境を作ることができた。また、個々の進度状況に對応できるため、調理実習等では、細部まで目が行き届き、支援の必要な生徒にもきめ細かな指導ができた。

⑥ 家庭との連携

月一回実際に、家庭での調理実践に取り組みさせ、三年間継続して「私のおかずレシピ集」を作成させるようにした。その際、家族のコメントやアドバイスをもらうことは学習意欲を高めることにつながった。また、鈴鹿市の年間三回の「お弁当の日」にも、家族の協力を得ることができた。

3 研究の成果と課題

(1) 成果

- 学習段階に応じた課題を設定することで、三年間継続的に「B食生活と自立」の内容を学習できる指導計画を鈴鹿市の家庭科教員で検討・実践し、研究を深めることができた。
- グループでの話し合い活動やワークシートの工夫は、習得した知識・技能を活用し、食生活をよりよくしようとする能力の育成につながった。
- 調理経験の少ない生徒にとって、「いわしのかば焼き」の「一人調理」は自分の力で「出来た」という達成感の味わえるものであった。さらに、簡単にできることから調理に取り組む意欲も高まった。
- チームティーチングを取り入れることにより、例えば、調理実習の場面で学級の生徒を半分に分け、きめ細かな指導をすることができた。また、技能が身に付いていない生徒について話し合い、個別指導をすることができた。生徒の質問に複数の教師が対応したことで、意欲が途切れることなく、学びを広げたり、深めたりすることができた。
- 「お弁当作り」の授業を通して、栄養のバランスを考えることができた。また、生徒同士でアドバイスをし合うことで、自分が作ったお弁当に対して良い点や改善点を明確にすることができ、アドバイスを次のお弁当作りに生かすことができた。
- 「お弁当の日」に実際に作ることで保護者の思いや大変さを感じ、生徒に感謝の心が育まれた。
- 月一回の調理の課題と年間三回の「お弁当の日」を設定し、調理体験の機会を増やすことで、調理技能の定着を図ることができた。

(2) 課題

- 学習する中で、生徒が自分の考えを記録し、その変容を振り返ることのできるワークシートの工夫をさらに進めていく必要がある。
- 今後、より効果的なチームティーチングの在り方の研究を進めていきたい。
- 週一時間の授業では、知識や技能がなかなか定着しないため、家庭でも実践する習慣を付けさせたい。そのため、生徒が興味をもてる魅力的な題材の開発を行っていきたい。さらに、家庭との連携方法についても研究を進める必要がある。
- 月一回の「私のおかずレシピ集」や「お弁当の日」においても生徒の調理や課題に対する意識の差は大きい。この意識の差を少しでもなくすことのできる指導方法を考えていきたい。
- 「私のおかずレシピ集」や「お弁当の日」における課題の評価方法との関連や交流方法について、研究を進めていきたい。
- 家庭で取り組みやすい課題内容について検討をしていきたい。

(3) 指定期間終了後の取組

- 今回の研究発表で頂いたアドバイスをもとに授業の改善や評価についての改善及び研究を進める。
- 本研究の成果については、授業の公開および授業研究会を鈴鹿市技術・家庭科研究会の会員に公開し、研究協議を行うことによって、研究を深め、その成果の普及を図る。また、平成27年度開催予定の全日本中学校技術・家庭科研究大会三重大会においてその成果を発表する。

